

かつやまじょうあと 10 勝山城跡

所在地：勝山市元町1丁目地係

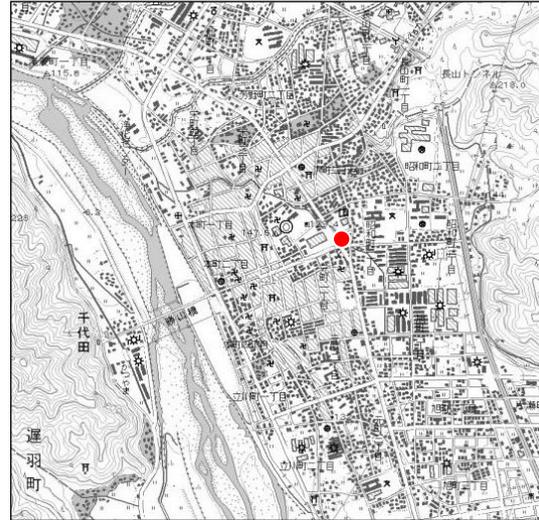
調査原因：雨水放水路工事

調査期間：令和4年7月

調査主体：勝山市

調査面積：63.6 m²

時代：弥生時代、江戸時代以降



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 勝山城は、^{むろこやまじょう}村岡山城を本拠地としていた^{しばたかつやす}柴田勝安が、天正8年(1580)に^{ふくろだ}袋田村(現 勝山市中心部)へ新しい城を築いたことがはじまりといわれています。地形をみると勝山城が築かれた地域は勝山盆地の中央に位置しており、現在でも、隣接する県や市町を結ぶ主要な道路が通っているように、当時も交通の要衝であったと考えられます。また、西側には九頭竜川が流れ、水運にも適した地でもありました。元禄4年(1691)に勝山へ入部した^{おがさわらさだのぶ}小笠原貞信によって、本格的に城下町が整備されましたが、明治時代以降の開発行為により勝山城は消滅し、現在は「勝山城再建絵図並びに添書」(1709年作成)などでしかその姿を想像することができません。勝山城跡の発掘調査は今回で4回目となります。調査地は、絵図などから「神宮寺」の寺域に含まれ、^{うまだし}馬出の堀にも隣接している付近です。

主な遺構 想定していた馬出の堀は見つからず、「神宮寺」の寺域の平坦面が確認されたことから、^{じょうかく}城郭の構造をより詳しく推定できる資料となりました。また、明治期の土坑や溝、弥生時代の土器が出土した小穴が見つかりましたが、昭和期の織物工場や道路の建設による^{かくらん}削平や攪乱で江戸時代の遺構は確認できませんでした。

主な遺物 出土量はコンテナ箱数でいうと3箱程度です。東西方向に走る^{そっこう}側溝を挟み、北・南区に便宜的に分けると北側のみに堆積する江戸時代の遺物^{ほうがんそう}包含層(灰色土)から越前焼のすり鉢や^{ひぜん}肥前陶器が見つかりました。その他は、明治期以降の整地層や^{とこう}土坑などから肥前陶器、赤瓦、銭貨(昭和11年発行の1銭)などが出土しました。市による勝山城跡の発掘調査では、初めての弥生時代の土器(^{ちようけいつぼ}長頸壺)が見つかり、

しちりかべ
七里壁より上の河岸段丘面において弥生時代のくらしの一旦が垣間見れる大きな成果となりました。
(藤本康司)

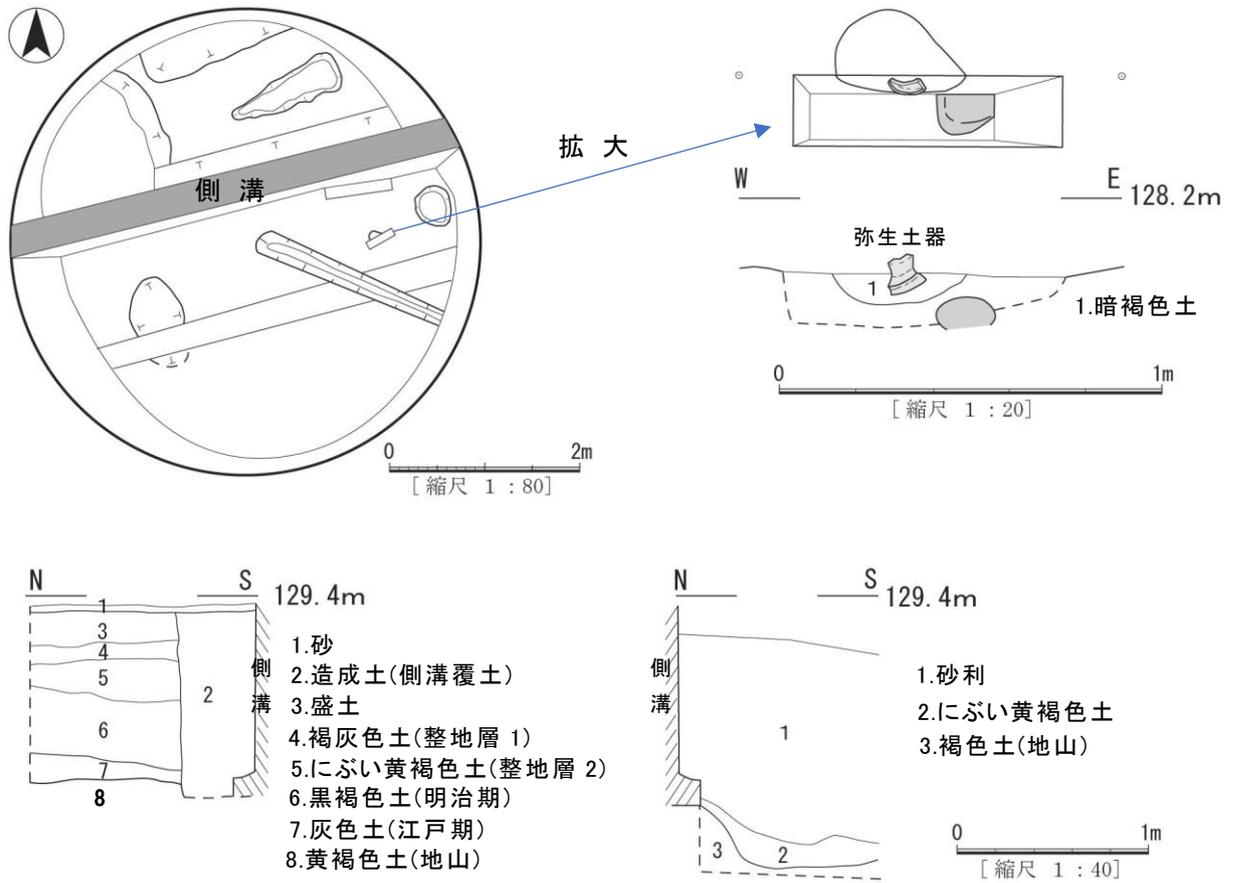


図1 調査地の平・断面図



写真1(左上) 調査地[北]全景(西から)

写真2(右上) 調査地[南]全景(西から)

写真3(左下) 発見された弥生土器